

時空の漂泊

(二〇一二年一月十一日 第四十三号)

高橋 滋

広島便り

二〇一〇里山を歩こう (十)

身近な自然観察

夏くる 八月四日(水)

アオスジアゲハ はよく飛来するが、高いところを飛び、一箇所に止まることも少ないので、写真に収めるのはなかなかむずかしい。この時期なりの花(ヌルデなど)が咲き、チョウを呼ぶ。容器がないのでバケツに入れて、網をかけてベランダに置いておいたら、網を外してだいふ逃げていってしまった。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/アオスジアゲハ>
白膠木：名前は、かつて幹に傷を付け白い汁(膠)を採り、塗料として使用したことに由来するという。



<http://ja.wikipedia.org/wiki/スルデ>
特徴：模様の区別点。これは次のホームページでも詳しく説明されている。



八月六日(金)

判定が別れ再訪を待っていたチョウが来た。図鑑で説明のある特徴から、やはりアサマイチモンジのようだ。

<http://homepage3.nifty.com/ueyama/shubetsu/tateha/asaichi/asaichi.html>

林間を歩いていると、スミナガシが来た。戦闘機のような体つきで、色・柄ともユニーク。地味派手な蝶である。



参考までに春型のスミナガシを紹介する。これは二〇〇八年五月撮影のものである。



ウラギンシジミも舞い始めた。



<http://ja.wikipedia.org/wiki/スミナガシ>「墨流し」で作った模様に見える名前。春に発生する個体は春型といって、この写真の夏型よりも白班が大きい。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/ウラギンシジミ>「裏銀小灰蝶」翅の裏が銀白色に輝く。

足元にはマムシグサの実が色づき、
アキノタムラソウが咲いて、秋の気配
を呼び寄せる。



<http://ja.wikipedia.org/wiki/マムシグサ>



http://homepage.mac.com/n_yoshiyuki/hana/akintam_urasou.html

八月九日（月）
ウラギンしじみの雄。もう秋の色で
ある。



ソバに止まるモンシロチョウ。秋の気配と共に再び姿を現し、小松菜や大根などのアブラナ科の野菜を狙う。春作のソバは、気温が上がると種子を結ばなく



http://www.mct.or.jp/www/isatsun/haruyasai/soba_soba.htm

なるので、播種の適期がきわめて短い。しかも3月末と、普通の種蒔きの感覚よりも早い。

そんなことをインターネット掲載の論文で知った。このあたりではソバの栽培は少なく、さらに春ソバは少ないようだ。

八月十三日（金）

クサギが咲いた。白い蕾が目立ち始めて二週間、ようやく開花した。

臭いにつられてか、黒いアゲハがたくさんやって来た。期待していたモンキアゲハも来た。真っ黒な大柄な白い紋が目立つ。密が少ないのか、同じ花に止まっている時間が短い。

落葉小高木。葉が大きく、葉柄を含め三十センチにもなる。その葉に一種異様な臭いがするの、この名前の由来である。
<http://ja.wikipedia.org/wiki/クサギ>

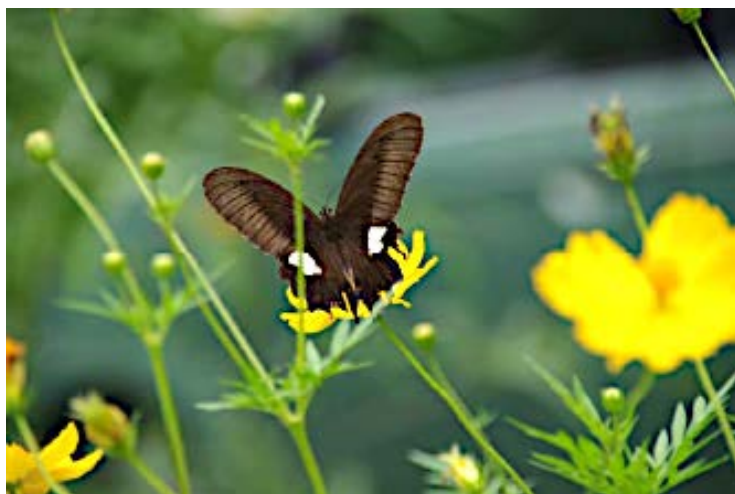


紋黄揚羽。前翅六十五〜八十センチ。日本最大級の蝶である。
<http://ja.wikipedia.org/wiki/モンキアゲハ>

<http://ja.wikipedia.org/キバナコスモス>



<http://ja.wikipedia.org/ゲンノシユウコ>



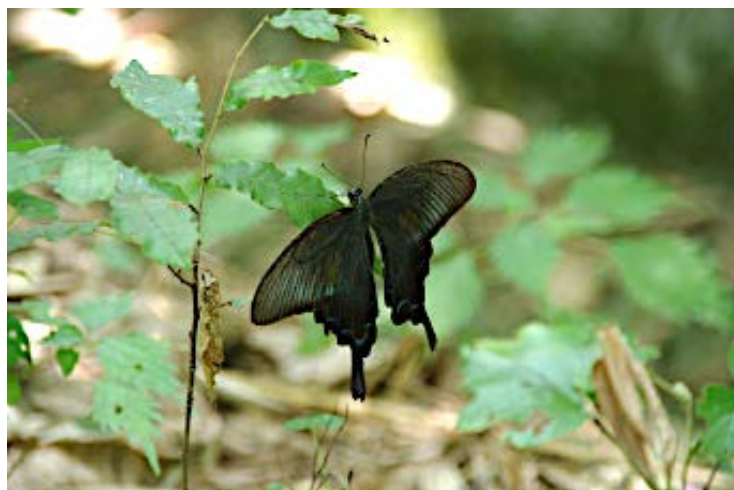
キバナコスモス にもやってきた。



足下にはゲンノシユウコ の艶やかな
花が咲いている。ゲンノシユウコの属名
はゲラニウムで、日本語ではフウロウソ
ウ属になるが、この仲間には綺麗な高山
草類が多い。花色、花卉の雰囲気とも繊
細である。もつとも季節が進むと草姿が
乱れてくるのが難なのだが……。

八月二十日（金）

酷暑と強い日差しにもかかわらず、多くのチョウが飛来する。モンキアゲハやカラスアゲハが乱舞するさまは見ごたえがあるが、羽を休めず吸蜜するため写真にとらえるのがなかなか難しい。



黒い羽で暑いのだろう、川沿いの下藪で羽を広げて休む姿が見受けられた。ヤンマのように体を垂らしている。
打ち水にキチョウが集まってきた。

八月二十四日（火）

五月はじめにツマキチョウを見て以降、注意深く観察してきた（廿日市市津田）。周辺の自然は毎週のように変化し、何の変哲もない中山間地なのに多様な昆虫が来訪する。改めて「里山の力」

（環境の多様性による生き物サポート力）を実感する。

林地にサトキマンダラヒカゲが。あまり目立たない。

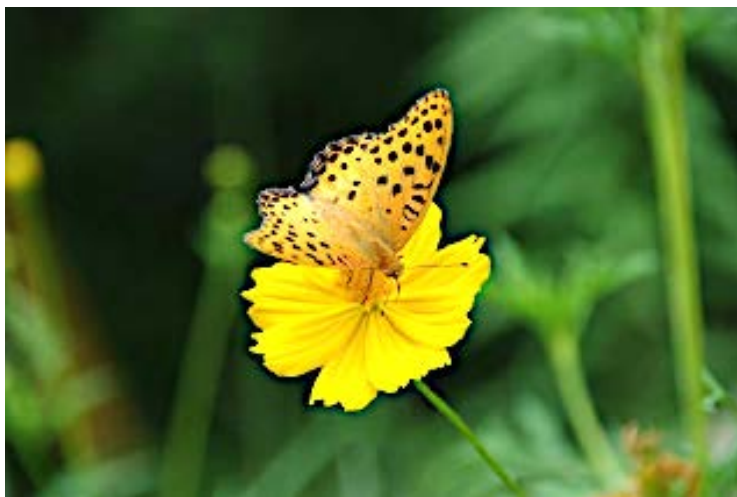
ヒヨウモン類が来ると、秋の気配である。ツマグロヒヨウモン。



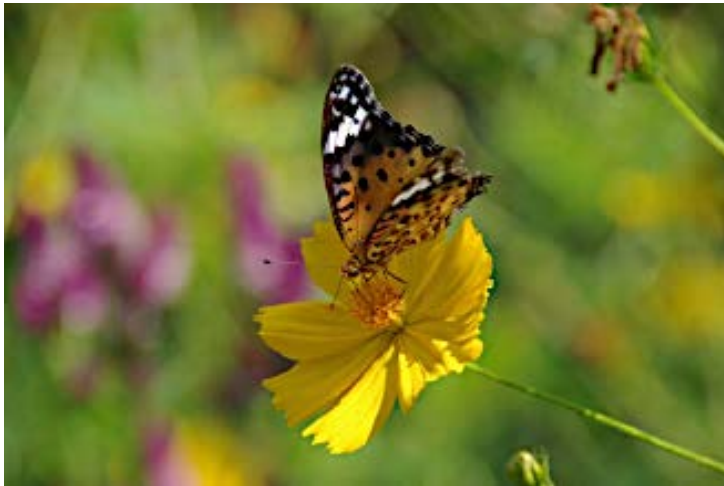
ヒカゲ
<http://ja.wikipedia.org/wiki/サトキマンダラ>



棲黒豹紋。雄と雌では紋がかなりことなる。
<http://ja.wikipedia.org/wiki/ツマグロヒヨウモン>



<http://ja.wikipedia.org/wiki/コメアカタテハ>



<http://ja.wikipedia.org/wiki/ルリタテハ>



ヒメアカタテハ。

八月三十一日

ルリタテハ も時期になると必ずやってくる。花に留まることはない。タテハ類の写真を見ると、皆、留まるのに足は四本しか使っていない。



